

会 議 録

会議の名称	第5回 第4期西東京市子ども読書活動推進計画策定懇談会
開催日時	令和2年11月12日（木） 午後2時から4時
開催場所	田無公民館 第二学習室
出席者	宮川委員 島委員 鈴木委員 長谷川委員 飯野委員 高木委員 山本委員 鎌田委員 今西委員 渡邊委員 八藤後委員 （欠席）長峯委員 事務局 徳山副館長 安中主任
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 第4回会議録の修正について 2 「はじめに」について 3 乳幼児を対象とした取組について 4 小学生を対象とした取組について 5 YAを対象とした取組について 6 今後のスケジュールについて
会議資料の名称	今後のスケジュールについて 参考資料 「はじめに」 乳幼児を対象とした取組 小学生を対象とした取組 YAを対象とした取組
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録 録

会議内容

1 第4回会議録の修正について

確認。修正なし。

2 「はじめに」について

委員 1段落目、長い文章があったので、区切った。表現も指摘いただいたところを修正した。3段落目、創造を削除して、論理的思考を入れた。最後は謝辞を消して、名前を載せない方向。

副座長 最後の幼稚園などへも～支援の輪を広げていく取組を継続して進めてまいります」がとても長い。「続けていく」ということが伝わるよう、削ってもいいのかもしれない。

副座長 それでよい。

委員 後半の「一人1台の～タブレット端末」のところだが、「願います。」が不自然。言いたいことはわかるが、「誰に対して」かが入っていない。

座長 願うだけではダメな気がする。

副座長 「出会いを一層身近にしていく」ということか。この計画を作る人が願うのではなく、取り組んでいかなければいけない。そこを伝える形にする。

委員 「一層身近なものにしていきます」ではどうか。

委員 「紙の本と身近に出会えるようにしていきます」ではどうか。

座長 これで戻していただき、訂正2回目をお願いしたい。

3 乳幼児を対象とした取組について

副座長 図書館の取組3ページ目だが、(2)③の文章だが、取り組むのは、親子の関係では不自然なので、楽しんでもらえるようにでどうか。同様に4ページ、絵本講座の実施が⑤ここにも「楽しんでもらえるように」として欲しい。4ページの⑥と⑦だが、ボランティアとの連携のところでは書かれている内容が重複している。⑦は、⑥に入るのではないか。司書の派遣、市民団体等への支援のところでは、乳幼児の保護者が参加するサークルなどという書き方になっているが、他にも読書活動に関わっている市民のサークルもあり、これからも支援していくと思う。「読書活動に関わる市民のサークル」もここに入ると思った。

保護者に向けての啓発的な取組のところでは、もうすでにいろいろな取組をしている市民のところでは司書が行き支援をするということは実際に行っているが、そのことが書かれている場所がここしかない。

委員 読書サークルへの司書の派遣ないので、小学生のところでは付記する。

副座長 ボランティアのところはいかがか。

委員 おはなし会ボランティアと団体をライン引きしたい。

副座長 外側から見ると同じなので、わかりにくい。ボランティアに対して取り組むことと、ボランティアはなくて、家庭でお子さんに関わっている人に対してと、ちょっと違う。ボランティアとの連携と書いてある下の段に、おはなし会ボランティアが入っているのが、不自然に思える。

委員 司書の派遣のところを検討してくる。

委員 乳幼児の2ページのところでは、児童館の(2)①の下から2行目、本が抜けているので追加する。図書館のところでは乳幼児のところだが、(1)の部分は、調整が必要なので、今回はこの項目を削除し、下の3本立てでいきたい。進展があった場合には、中間報告で追記する。

座長 ボランティアとの連携のところだが、読み聞かせボランティアの技術の向上を目指し、のところだが、読み聞かせ等の技術の向上に抵抗がある。本当にそういうことをやっているのか。

副座長 本選びの様々なポイント等は向うが、読み聞かせをどうしようということはない。

座長 技術があると思われると困る。ないことはないと思うが、いわゆる技術とは違う。

委員 選書の技術とかを含めてのニュアンスで、テクニックではない。

座長 そんな技術が必要だったら、できないと誤解を与えるのではないか。

副座長 質の向上という言葉はあいまい。伝えたらできるようになるという意味にも取られる。

座長 読み聞かせ等をより豊かにするためにはどうか。あいまいだが。後にも同じ文言が出てくるが、危険な気がする。

委員 「質」という言葉を使ったことがあるが、同じレベルというイメージ。わかりやすくした方が良いか。

委員 技術より、質はあるかもしれない。

座長 子どもに相對する、選書も含めて、どういう本が適当かということもあり、子どもとの相對仕方かと思う。

委員 宿題とさせていただきます。「質」と「読み聞かせをより豊かにするために」を検討する。

副座長 読み聞かせをより豊かにするために研修をする。漠然としているが、文章としてはつながる。

座長 3期ではどうだったか。

委員 3期でも、小学校のところで言っている。22ページ。

座長 写真があるので、救われているが検討したい。他にはどうか。

委員 保育園のところで、「絵本便り」と漢字になっているが、他のところで、「おたより」が出てくるが、統一する必要はあるか。

副座長 この計画の中では、ひらがなでそろえてもいいのではないか。

委員 では全部ひらがなでいく。

委員 小・中学校はどうするか。「図書館だより」をここで統一するなら、ずっと読む読者にとっては、合わせたほうがいいのではないか。自校では「図書室だより」とひらがなだが、漢字の学校もある。この文章で統一してもよい。

副座長 この計画の中では、固有名詞以外は、ひらがなとする。

4 小学生を対象とした取組について

副座長 3ページの図書館のところ、(1)①「友だちと共感しあえる企画をする」とあるが、「行う」。4ページ(2)継続の取組の②サービスの支援 支援の充実の3行目、「母語としていない」は「母語としない」。次の行の「分かりやすい」は「わ」かりやすい。最後のところ、「図書館利用のハードルを下げる環境を整備します。」は、表現が良くない。図書館利用をしやすい条件を整えとか、図書館が利用しやすくなるよう等、サービスを求めている人にどうしたらわかりやすくなるのか聞くことから始めなければならない。

委員 利用しやすくするという言い換える。

副座長 ⑧の司書の派遣のところに、読み聞かせ交流会のことが書いてあるが、ここではなく⑦なのではないか。ボランティアとの連携の中に、市民と協働していく取組が入ると思う。読み聞かせ交流会に関しては、書き方全体がこれからの取り組み方にも関わるが、小学生を持つ保護者を対象とした、とあるが、小学校で読み聞かせをしている保護者とともに行うものである。一番最初の成り立ちから言ったら、策定懇談会委員が呼びかけをして協働でやっていくという形だったが、現在は共催になっていると思う。

委員 前回の文章を流用している。現状と違うのであれば、訂正する。書く場所を⑦に

移動する。

副座長 司書の派遣だとやっているところに来てもらうが、共催なので、派遣ではなく、主として出てくるので⑦。読み聞かせをしている保護者たちはボランティアとして関わっている。自発的な活動かと言われると、今年はどここの学校もできていないので、この春にはできないと思うが、読み聞かせがまた始まれば、このような交流は必要なので、載せるなら⑦でよい。

委員 「小学生を持つ保護者を対象とした」ではなく、「小学校で読み聞かせをしている保護者とともに」と訂正する。

委員 図書館の前計画に引き続き推進していく主な取組で、大枠を作っていたが、書架とサービスを分けたほうがわかりやすいとのことで、今回新たに①②組み換えしてきたが、いかがか。図書館計画でも用いている表現である。

委員 追加で、図書館の(2)④、きっかけ作りと言っているが、図書館利用のきっかけとなるではまずいのか。

委員 訂正する。

座長 「きっかけに」でいいのではないか。

委員 書架作りより、魅力ある蔵書作りと提供方法の充実ではないか。

座長 魅力ある蔵書構成ということか。書架作りの方が手作り感あるが、本当は蔵書構成のことである。

委員 手の出しやすい書架ではどうか。

委員 並べ方や書架の配置のことか。小学校でも本棚を動かすとだいぶ変わる。

座長 本文の方だと「様々な興味に応えられる資料を収集し」は蔵書構成である。「新鮮で魅力ある書架作り」は物としての本棚の問題もある。蔵書構成という言葉を出した方がいい。

副座長 書架作りは、提供方法になるのか。

座長 書架作りは比喩的というか、イメージ的な言葉で、両方の意味がある。

委員 別置するとか、面出しするとかいろいろな意味がある。

委員 書架という言葉自体が子どもや一般市民には遠い。同義語が多いから、思い切って魅力的な本棚とか。資料を収集する蔵書。新鮮で魅力ある本棚。展示を充実させというのは後ろにあるが、前に持ってきて、展示を充実させ、魅力ある本棚を作ります。」とすると一般の人にもわかる。これは誰が読むのかということである。

委員 図書館からのメッセージとすると、書架作りと蔵書構成、配置でいい。

委員 図書館計画に入っている言葉であれば、いいのではないか。

委員 「提供方法の工夫」に訂正する。

座長 書架作りはこのままとする。蔵書構成と見せ方と両方入っている。

5 YAを対象とした取組について

委員 まずは、中高生・YAのセンテンスの分け方について。3期では<中学生><高校生・YA世代>と別れていた。YA世代についての注釈は、13~18歳となっている。文科省の子ども読書活動の推進に関する有識者会議の論点には、中学生はおおむね12歳から15歳まで、高校生の時期はおおむね15歳から18歳までとなっている。高校生世代・YA世代のひとくくりが違和感ある。

センテンスについて、ほとんど3期を踏襲している。中学生に関しては「部活動や勉強及びスマートフォン等により、読書する時間を確保することも難しくなります」を入れ込んだ。高校生世代については、「生活環境により、読書の量や質の差は大きくなり、個人個人が得られる情報や知識も多様化していきます」を入れ込みたい。「格差が広がってについては、読む子と読まない子の差が広がったり、経済的な状況で読む情報の量が違っている等の意味」ということを格差という言葉で入れ込むのか。あとは、「仕事やアルバイトやSNSなど社会と繋がりが増える中

で」を入れ込んだ。

座長 これは、全体を「YA世代を対象とした取組」をし、計画の中身をどう分けるのかを考えていく方がよい。

副座長 西東京市としては、13歳から18歳がYA世代となっている。

ここは中学生・高校生とは分けて、センテンスの中で、「中学生の頃」は、「高校生になる頃」はもしくは「10代後半になる頃には」、とすればよいのでは。

座長 それでは、大きな区切りは、YA世代とし、文章の中で、「中学生の頃には」「10代後半になる頃には」分けることとする。

副座長 多様化と格差のところはどうなのか。

委員 違う表現を使うと二極化ではないか

座長 格差だと上と下、多極化だとわかりにくい。来週の起草で詰める。何か児童館から先のことで何かあるか。

副座長 図書館の取組、中学校・高校との連携及び司書の派遣のところ実際はあるのか。

委員 行ったことはないが、要請があればということである。

副座長 なぜ聞いたのかと言うと、市内にある高校は私立及び都立であり、市立はない。認証保育所等へのサービスに近いのかなと思った。もしそうであれば、広報が必要なのではと思う。そのことも計画に載せたほうが良いのでは。

座長 高校はいくつあるのか。

委員 都立3校と、私立2校である。

委員 単位制の学校や通信のサポート校もある。

委員 通信の学校やサポート校に行くと、そこで読書活動が途切れてしまう。

サポート校と通信の学校に行く。そこで読書活動が途切れてしまう。

副座長 高校生年代の人たちに向けて、そこが公共図書館が一番やらなくてはいけないところかもしれない。どこに書けるか難しいが、大きな問題で、5年間でそれがとても進んだ。子どものいる場所が変わってきていると思う。

委員 図書館利用者で10代の人たちがどのぐらいいるのかわかるのか。

委員 世代別登録者数が出るが、中学生とハイティーン（16歳～19歳）と分けているので、YA世代とちょっとずれるが、中学生2413人とハイティーン1858人が登録者数である。在住の人数ではない。在住とするともっと減る。

委員 小学1年生には、利用案内を配布するが、中学生にも利用案内を配布すればいいということか。

委員 中学卒業時に「図書館があるよ」ということを伝えてはどうか。

委員 中学校では、読みたい本がない場合に、「図書館にある。どこかの図書館に行くと、そこになくてもホームページで見て、どこかにあれば、午前と午後配送便があるから、近くの館に持ってきてもらえる。実は卒業の時に、高校の図書館の話もしつつ、公共図書館も案内する。

副座長 市の方からも働きかけてもいい。「あなたの世代の本もある」という働きかけをしてもいい。

委員 卒業の前にいろいろな講習があるので、半社会人として、公共図書館の豊かな使い手となるようにかわいいカードのような形がいい。

委員 現在やっているのは、CATCHを中学校・高等学校に配布しているということか。CATCHはブックリストか。

委員 同世代が書いているイラスト入りの情報誌あるいは、書評誌。

委員 児童館にも置くと良い。

委員 中学校も含めて、YA世代に「図書館はウェルカムなんだよ」ということを伝えないといけない。

副座長 これからの5年間と考えると大切だ。

委員 今話題に出ているのは主に二つある。図書館側から図書館利用について、もっと周知する。そのために、冊子を作ったり、中学の学校図書館の力を借りる等、広く方策を考える。もう一点は、普通の高校の支援からはずれている教育機関への案内やサポート。二つの項目を新たに入れ込むことはできるか。⑤の発行物による情報提供や④の図書館の活用方法を伝える事業とかあるが、それとはちょっと違う。まとめてもいいが、今の2点を何とか入れこむ新しい項目立てをしてもいい。

副座長 CATCHを児童館に置くことはすぐやってほしい。

委員 カードの件はCATCHとは違うのか。

委員 CATCHに興味を持ってくれる子どももいるが、あれでもまだ重い。「夏休みすいせん図書」も配っているが、卒業時に全員におめでとうというカードなら響くと思う。

委員 紙より圧着したカードはどうか。紙だと濡れたりすると破れてしまう。

委員 予算的に、厳しいが、⑤にPRとして入れられるように調整したい。

児童館の(1)①に「本などを読める場」とあるが、「読むことのできる場所」でもいいか。

委員 通りのいい言葉に変えていい。

副座長 「本のある場」はどうか。「本がいっぱいある」ということを発信したいということでもいいか。

委員 本を持ってきて読んでもいいが、そういうタイプの子どもは図書館に行く。児童館に来てまで本を読まない子が多い中で、進学の本など、実はいろいろあるよということ。

委員 小学校では直前に教育課程の展開に寄与するためという学校図書館法の文言が入っているので、同様に入れて欲しい。3ページ、教職員への働きかけのところで、小学生のところでは、「長期休業中の宿題や家庭学習の内容に読書を取り入れて」という文言があるが、家庭への働きかけにもあり、中学にはないが、中学校でもやっている。小学生の3ページの⑥を中学生にも入れて欲しい。校内研修は実情ちょっと難しい。家庭への働きかけにもあるが、教員に向けてもやっている。起草委員会でもんでいただきたいが、事実としてやっているのでもお願いしたい。

委員 ①の最後、中学校の図書委員会の活動を通して、集会がわかりにくい。

副座長 小学校では、小学校の図書館委員会の活動において集会の実施を、とつながっている。この方がわかりやすい。あとは基本的には流れが一緒で、小学校よりずっと主体的な活動が多いという書き方になっている。

委員 今回は、小学校と中学校と連続した書き方にさせていただきたいと思った。市立小・中学校の流れに沿って書いたと思う。

座長 YAのところは、来週の起草委員会で話す。

6 今後のスケジュールについて

懇談会

第6回 12月4日(金) 午後2時から4時 田無第二庁舎 4階 会議室2

パブリックコメント 1月15日から2月12日まで。

第7回 2月17日(水) 午後2時から4時

第8回 3月3日(水) 午後2時から4時

起草委員会

第3回 11月18日(水) 午後2時から4時 田無庁舎地下1階 第一会議室

次回 会議の日程 12月4日(金) 午後2時から 田無第二庁舎 4階 会議室2